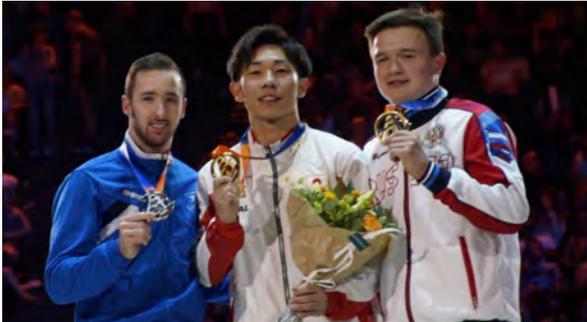


Monthly Report

Vol.161 / 2019 .SEP

体操競技部：南、国際大会で優勝／五輪へ弾み



表彰台の真ん中で金メダルを手に表情がほころぶ南

うれしいニュースが入ってきました。体操の種目別ワールドチャレンジカップ・パリ大会が9月14（土）、15（日）の両日（フランス現地時間）行われ、体操競技部の南一輝（体育2年）が床運動で優勝しました。「床運動のスペシャリスト」として東京2020への出場を目指す南にとって大いに弾みがつくスタートとなりました。

大会に同行した本学体操競技部の鈴木良太監督、山口貴久副部長からの連絡によると、南は予選を1位通過し決勝でも着地をうまくまとめました。総合得点は15.100で2位のイスラエル、ドルゴピア・アダム選手に0.200の差をつけました。技の難易度をみるDスコアは6.600点で出場選手（決勝44人）中トップ、演技の雄大さをみるEスコアも8.500点の高得点をマークしました。2位のイスラエル選手は現在世界ランキング上位に位置するだけに大変価値ある優勝です。

南の東京五輪への挑戦は今後、11月のワールドカップ（W杯）シリーズのコトブス（ドイツ）大会からが本番となります。ご声援よろしくお願ひします。

<報告：体操競技部>

大塚製薬株式会社と連携協定を締結



写真左から朴澤泰治理事長・学事顧問、吉田雅郎 大塚製薬株式会社仙台支店長

9月24日（火）本学L棟1階において、学校法人朴沢学園仙台大学は、大塚製薬株式会社と「地域における健康増進及びスポーツ振興に関する連携協定」を締結しました。本協定は、両者が有するそれぞれのリソースを相互活用しながら、産学間の連携協力による健康増進及びスポーツ振興の取組みを推進し、地域住民の健康で豊かな暮らしの実現に資することを目的としています。今後本協定に基づき、より多くの地域貢献活動を行っていくようさまざまな事業に取り組んでまいります。

<報告：事業戦略室>

Monthly Report

<目次>

・体操競技部：南、国際大会で優勝／五輪へ弾み ・大塚製薬株式会社と連携協定を締結	1
・全日本大学選手権で漕艇部 男子が総合優勝！	2
・柔道部：4年ぶりの複数入賞！～2019全日本学生柔道体重別選手権大会～ UNIVAS CUP2019：漕艇部と柔道部が大活躍 総合22位に ・男女バレーボール部：樺の木杯開催	3
・サポート研究会メディア班の作品が全国視聴覚教材コンクールで優秀賞 ・「マルチメディア論」デジタル社会のジャーナリズムを考える ・「総合英語B」、「総合英語D」の成績優秀者に対する表彰式を実施しました	4
・芝草通信 NO. 6	5
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.18 ・仙台空港（国際線・国内線）看板をリニューアル	6

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

全日本大学選手権で漕艇部 男子が総合優勝！

9月5日（木）から9月8日（日）に戸田ボートコースで行われました第46回全日本大学選手権で、男子では初の総合「日本一」を果たしました。

本学では種目別で毎年のように優勝種目を出してきましたが、今年には種目別（全7種目）で過去最多の4種目で優勝、花形の男子エイトでも2位と健闘し、日本大学の14連覇を阻止しました。

高校時代のトップアスリートの多くが関東の強豪校に入学している中、本学では阿部肇監督の指導のもと、選手たちが努力を惜しまず、他大学の追従を許さない競技力向上の成果を見せました。



総合優勝を果たした男子漕艇部

結果は以下の通り

男子総合 優勝

男子エイト 準優勝

佐々木雄也さん（主将：体育学科4年）
 松浦大河さん（副将：体育学科4年）
 上中屋敷拓志さん（体育学科4年）
 信夫 涼さん（体育学科3年）
 杉浦 旭さん（体育学科3年）
 村野滉太郎さん（体育学科3年）
 桑村 潤さん（体育学科3年）
 阿部亮平さん（体育学科2年）
 別府弘崇さん（体育学科2年）

男子舵手なしフォア 優勝

村上和貴さん（体育学科4年）
 古賀健嗣さん（体育学科3年）
 梶原龍将さん（体育学科3年）
 横尾剛士さん（子ども運動教育学科3年）

男子舵手付きフォア 5位

村松史也さん（現代武道学科3年）
 岸本健吾さん（体育学科1年）
 藤岡駿平さん（現代武道学科3年）
 鳥居勢矢さん（体育学科3年）
 立野 陸さん（体育学科2年）

男子クォドルプル 優勝

内田智也さん（体育学科2年）
 石倉嵩大さん（体育学科2年）
 石垣達也さん（体育学科2年）
 佐竹洸紀さん（現代武道学科2年）

男子ダブルスカル 優勝

山下大和さん（現代武道学科2年）
 小沢 源さん（子ども運動教育学科2年）

男子シングルスカル 優勝

一瀬卓也さん（大学院1年）

女子舵手付きクォドルプル 3位

内海美香さん（女子主将 体育学科4年）
 大出若奈さん（体育学科4年）
 平松柊華さん（体育学科4年）
 上浦実咲さん（健康福祉学科3年）
 玉田夢子さん（体育学科2年）

女子舵手付きフォア 3位

落合ゆきさん（女子副将 体育学科4年）
 佐々木遥香さん（運動栄養学科2年）
 加藤彩香さん（運動栄養学科3年）
 柴田寿音さん（運動栄養学科2年）
 酒巻有利さん（体育学科1年）

<報告：漕艇部>



柔道部：4年ぶりの複数入賞！～2019全日本学生柔道体重別選手権大会～

9月28日（土）・29日（日）の2日間にわたって全日本学生柔道体重別選手権大会が秋田県立武道館で開催されました。

本学からは、男子6名、女子22名の合計28名が出場しました。

この大会は、例年日本武道館で行われておりましたが、2020東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴う改修工事のため、本年度は秋田県にて実施されることとなりました。

本大会では、女子2名の選手が3位入賞を果たしました。2名以上の複数入賞は4年ぶりとなります。

また昨年は入賞者1名でしたが、今年はその結果を上回ることができました。

入賞者を輩出できた一方で、男子を含め、全国大会の壁に阻まれた選手も見受けられました。

来月には全日本学生柔道体重別団体優勝大会（尼崎開催）を控えておりますので、引き続き余念無く稽古を続けていきたいと思っております。

ご声援をいただきまして誠にありがとうございました。

以下、5位以上の入賞者です。

52kg級 対馬みなみ（現武1）	第3位
78kg超級 廣谷姫奈（現武3）	第3位
48kg級 山口かなえ（現武4）	第5位
78kg級 土佐真紀子（現武3）	第5位

< 報告：柔道部 >



52kg級 対馬みなみ（現武1） 第3位
表彰の様子（左から3番目）



78kg超級 廣谷姫奈（現武3） 第3位

UNIVAS CUP2019：漕艇部と柔道部が大活躍 総合22位に（9月29日時点）

全日本大学選手権大会で初の男子総合優勝を果たした漕艇部や全日本学生柔道体重別選手権大会で複数入賞した柔道部の活躍によりUNIVAS CUP2019総合順位が22位となりました。

○結果は以下の通り

< 漕艇部：第46回全日本大学選手権大会 >

男子エイト	2位 (68pt)
男子舵手なしフォア	優勝 (114pt)
男子クォドルブル	優勝 (114pt)
男子ダブルスカル	優勝 (114pt)
男子シングルスカル	優勝 (114pt)

女子舵手なしクォドルブル 3位 (45pt)

女子舵手つきフォア 3位 (45pt)

< 柔道部：2019全日本柔道体重別選手権大会 >

52kg級 対馬みなみ（現武1）	第3位 (50pt)
78kg超級 廣谷姫奈（現武3）	第3位 (50pt)
48kg級 山口かなえ（現武4）	第5位 (30pt)
78kg級 土佐真紀子（現武3）	第5位 (30pt)

男女バレーボール部：樫の木杯開催

8月27日（土）、28日（日）本学を会場に、第38回仙台大学樫の木会長杯争奪高等学校女子バレーボール大会、および第1回仙台大学樫の木会長杯争奪高等学校男子バレーボール大会を開催しました。

今大会は本学OB・OGの先生方からなる樫の木会のご協力の元、本学の男女バレーボール部員が「仙台大学の専門教養演習」の授業の一環で、大会運営に関して中心的に関わって行っています。今年は県内外から女子10校、男子4校の計14校にご参加いただき、熱戦が繰り広げられました。樫の木の先生の先生方からのご指導や、高校生のプレーから新たに得るものも多く、本学生にとって学び多い2日間となりました。

今後も、大学生と高校生の交流する機会が増えていければ良いと思っております。

< 報告：男女バレーボール部 >



表彰時の様子

スポーツ情報マスメディア学科：サポート研究会メディア班の作品が全国視聴覚教材コンクールで優秀賞

スポーツ情報マスメディア学科のサポート研究会メディア班が制作した映像作品が、令和元年度全国自作視聴覚教材コンクールの社会教育部門で優秀賞を受賞しました。

優秀賞を受賞したのは去年研究会のメンバーが宮城県内で開催されたプロアマのスポーツイベントで活躍するボランティアを取材した19分25秒の映像作品「スポーツの場で活躍するボランティア」です。

9月13日（金）に東京・霞が関で開かれた表彰式には、学生を代表して4年の高橋雅弥さんと指導に当たった小野寺努さんらが出席、日本視聴覚教育協会の生田孝至会長から表彰状が贈られました。審査員からは「スポーツ・ボランティアの活動領域は広範に及ぶ。競技者、指導者以外に支援者がいなければスムーズな運営はできない。本作品は、日常的なスポーツ活動におけるボランティアの意義や、ボランティアとして活動する人々の様子を描いている。オリンピックのボランティア活動領域の分類をも踏まえて、もう少し分かりやすい分類に整理する方法もあったのではないか。その上で、それぞれの意義を掘り下げるなどすれば、なお良い作品になっただろう。」という評価をいただきました。

この作品は6人のメンバーがいる4年生が中心となって制作したのですが、現在3年生のメンバーはいないため、今後は2年生1人と1年生4人という少人数で活動を引き継いでいくことになります。

<報告：スポーツ情報マスメディア学科>



写真左から、小野寺努さん、高橋雅弥さん（スポ情4年）



表彰の様子

スポーツ情報マスメディア学科：「マルチメディア論」デジタル社会のジャーナリズムを考える

スポーツ情報マスメディア学科の3、4年生を対象とする集中講義「マルチメディア論」の授業が9月9日（月）～11日（水）の3日間、本学内で開かれました。デジタル社会の最前線で地域の「いま」を発信し続けるフリーのジャーナリストや新聞社でデジタル戦略に取り組む担当者らを講師に迎え、変貌するメディア環境のなかでジャーナリズムはどうあるべきなのかを学びました。

学外講師は元河北新報社メディア局長で現在メディアプロジェクト仙台代表を務める佐藤和文さん、NPO法人メディアージの常務理事漆田義孝さん、河北新報社デジタル推進室長の安倍樹さん、同写真部次長の長南康一さん。4人はそれぞれの立場からデジタル社会の過去・現在・未来を語り、メディアの課題と可能性を分かりやすく解説してくれました。



上段左から、佐藤和文さん、漆田義孝さん
下段左から、安倍樹さん、長南康一さん

「総合英語B」、「総合英語D」の成績優秀者に対する表彰式を実施しました



表彰式の様子

9月30日（月）本年度前期開講の英語必修科目「総合英語B」と「総合英語D」の成績優秀者134名に対して、英語力向上のための日頃の努力への賛辞とその努力の今後の継続を願って、表彰式が実施されました。成績優秀者には、本学を会場として実施するTOEIC試験の受験費無料の特典（1年間）と、成績に応じてクオカードが贈呈されました。

表彰式では遠藤保雄学長が「皆さんが常日頃、継続的に努力をしてきた結果であると思います。今後も努力することによって世界が2倍、3倍に広がることを念頭に置いて頑張ってください」と表彰者を激励しました。

芝生（ハイブリッド芝）の視点からラグビーワールドカップを楽しむ

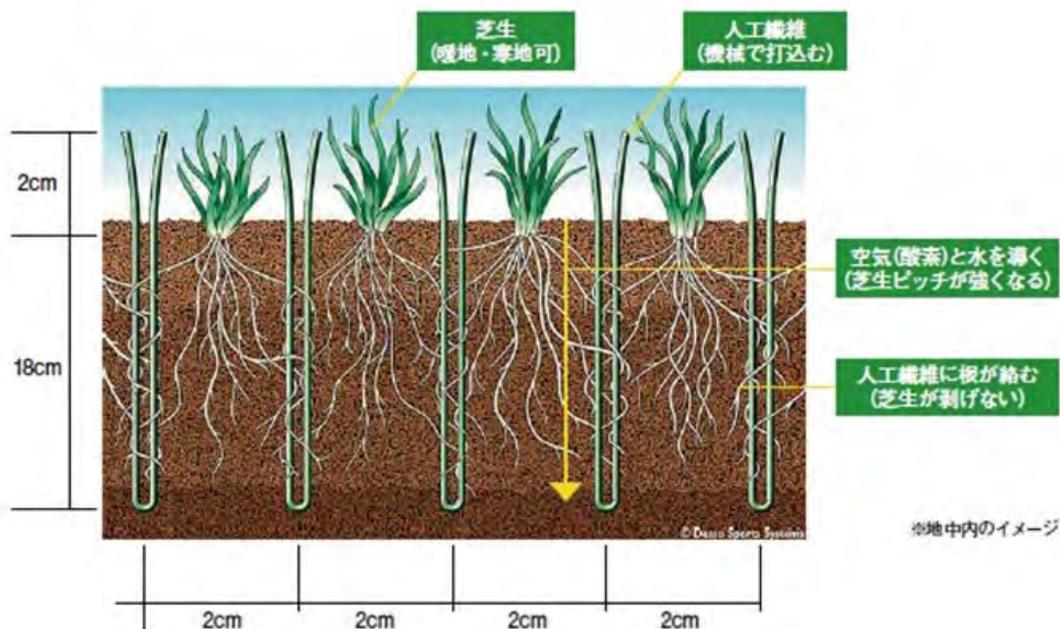
ラグビーワールドカップで日本は9月28日に世界ランク第2位のアイルランドを19-12で歴史的勝利の金星でした。素晴らしい試合中継の一方で、今回は芝生の断面構造について話をします。どのスタジアムも濃い緑色の元気な芝生が整備されています。多くは暖地型洋芝パミュダグラス系統の「ティフトン419」ですが、中には寒地型洋芝「ケンタッキーブルーグラス」もあり、全国で各々の地域性が有ります。一般的には天然芝生のグラウンドと人工芝生のグラウンドに区分されていました。今年の春から日本サッカー協会と日本ラグビー協会はヨーロッパの有名スタジアムで採用されている、天然芝生に補強材として人工芝生を組み合わせる「ハイブリッド芝」として公認しました。

昨年ロシア開催のサッカーW杯は12会場のうち9会場がこの「ハイブリッド芝」でした。天然芝生の根茎が人工芝生に絡み付き剥離されにくくなります。また空気の通りが良くなり土壌固結を和らげると共に排水性も向上する様です。日本ではいち早く神戸のノエビアスタジアムで採用されています。

尚、釜石鶴住居復興スタジアム（9/25, 10/13試合会場）だけは、これと違った構造になっています。人工芝生の繊維と、天然コルク、砂をあらかじめ芝生の床土と混合して敷き均し、その土壌に天然芝生を生育させている構造で、表面に人工芝生は存在しない。また、カーペットタイプは基盤面上に人工芝を配置し、その上に天然芝生を生育し、その根茎が絡みつくことで補強している。日産スタジアムがこのタイプです。

どのスタジアムが「ハイブリッド芝」断面構造なのか或いは従来通りの天然芝生だけの断面構造なのかなどと推測しながら試合を観戦して見ると、今までとは違った興味も湧くと思います。W杯では熱戦を応援・楽しみながら、少し視点を変えてプロの芝生グラウンド整備の優れた手法を楽しむことが出来るでしょう。

もし、解説者がグラウンドの芝生に触れた時には、気になるワードを検索して楽しく観戦を推奨します。その時に注意することとして「ハイブリッドターフ」と検索すると某社の人工芝生が現れますが、これは某社が登録商標を申請した人工芝生のことです。そのために芝草学会では「ハイブリッド芝」と言ってます。（9月30日記）



ハイブリッド芝の断面構造

「高校スポーツの安全を守る」Vol.18

担当：浅野 勝成 助手

高校では後期の授業が開始しました。今年度も、健康スポーツコースに対して4つの授業を担当させて頂いております。1年生にはトレーニングの基礎（座学）とレジスタンストレーニング（座学+実技）、2年生にはプライオメトリクスとアジリティ（どちらも座学+実技）の授業を展開しています。他のATスタッフが担当する解剖学やスポーツ傷害などの科目もあります。日頃の練習やトレーニング、そしてコンディション調整などに応用できるように学習してもらえればと思いながら教鞭を取っています。

先日、解剖学の授業の一面でおもしろいことがありました。「太もも裏の筋肉は俗になんと呼ぶでしょうか？」という問いに対して大勢の生徒が自信を持って「ハム！！」と答えたことです。ハムとは私の大好きな食べる方ではなく、太もも裏の3つの筋肉から構成されるハムストリングの略語です。普段のトレーニングで鍛えることに重きを置いている部位の一つがハムです。その成果（？）なのか、生徒達が自然と部位と名前を覚えていたようです。その光景を目の当たりにした私は、つつい拍手をしてしまいました。

日々実践していることを授業で学ぶ、または授業で学んだことを実践に活かしてみる。ある種アクティブラーニングになっていると感じます。私自身も大学時代は、授業で運動生理学やバイオメカニクスなどを学習しながら、大学所属のS&Cコーチにお願いしてボランティアとしてインターンを3年間行って実務経験を積んできました。実践経験を積んでいるからこそその疑問が沸くことが多々あり、それを授業（もしくは教授に質問）で学ぶ。または、授業で学んだことを実践の場で確認してみる。やはり、座学も実践も双方のバランスを使い分けながら学習していくのがベストではないかなと改めて思います。この授業を通して、生徒達が“学び方”を習得し、大学や就職先での学びに活かしてもらえればなと思います。

次回は、前期の活動を振り返って（担当：白坂）

仙台空港（国際線・国内線）看板をリニューアル



日本語表記



英語表記



設置後の外観

9月9日（月）仙台空港1階（国際線・国内線エレベーター付近）に掲出している、本学の広告看板をリニューアルしました。

「本学と国際交流を行う11か国18大学・1機関」をテーマに仙台大学開学50周年記念交流イベントIFE in SENDAIで披露された国際交流を締結している大学の演武や舞踊等が紹介されています。

是非ご覧ください。